

2019 年度事業計画

(公財) 日本ラグビーフットボール協会

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会（以下、RWC2019）開催となる本年は、当協会にとって大きな節目の年になります。RWC2019 の成功はもちろんのこと、その後に大会のレガシーをいかに残し、活用する取り組みを推進できるか、非常に重要な1年となります。

日本代表チームの強化面においては、15人制男子はこの4年間の総決算の年となり、引き続きサンウルブズの活用、国際大会への参加や壮行試合の実施を始めとした後述の各施策により、RWC2019において、ベスト8以上を目指します。また、第32回オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、TOKYO2020）の男女7人制を始めとする各カテゴリーも、それぞれの目標達成に向けて引き続き取り組んでまいります。女子15人制も2021年に開催されるラグビーワールドカップに向けて始動いたします。

日本におけるラグビー競技の繁栄、普及・浸透に大きな影響を与える「ジャパンラグビートップリーグ（RTL）」については様々な外的要因を踏まえ、次のステップアップのために発展的な改革が急務となっており、具体的な実行フェーズに着手いたします。

普及育成面については、「Impact Beyond2019」、及びラグビーワールドカップ開催都市との連携事業「未来計画」を推進するとともに、ラグビー憲章に掲げる「Integrity（品位）、Passion（情熱）、Solidarity（結束）、Discipline（規律）、Respect（尊重）」の5項目を、協会を挙げてその確実な浸透を引き続き図ってまいります。

「日本ラグビー戦略計画 2016-2020」については、引き続き進捗状況を把握するとともに、関係部門においてPDCAを的確に回し、計画の達成に向け、必要な施策の実施を継続していくことと並行して、2026年に迎える協会100周年に向けて、協会としての方向性を定めるべく、新たな中期戦略計画の策定に着手する準備を始めております。

各分野における主な施策のポイントは以下のとおりです。

1. 強化

下記の試合を通じ、強化を図ってまいります。

- ① 15人制男子：(7月) vs フィジー、(8月) vs トンガ・vs アメリカ、(9月) vs 南アフリカとのテストマッチ
- ② U20：4・5月のオーストラリア遠征、7月にブラジルで開催される WR U20 Trophy
- ③ 男女7人制：男子は、4月～3月に開催されるセブンズワールドシリーズ、8月～10月に開催されるアジアセブンズシリーズ。女子は、4月・10月～2月に開催されるウィメンズセブンズワールドシリーズ、8月～10月に開催されるアジアセブンズシリーズ、その他6・7月のイタリア・アメリカの海外遠征
- ④ 15人制女子：7月のオーストラリア遠征、2020年3月に予定されているアジアラグビーチャンピオンシップ

その他、サンウルブズとラグビーワールドカップトレーニングスコッド (RWCTS)、およびナショナル・デベロップメント・スコッド (NDS) の連携に加え、各トップリーグチームの協力を得る

なかで、さらなる選手層の拡大、国際経験の向上を強力に推進いたします。

2. 事業

RWC2019 については支部協会ならびに各都道府県協会とともに、(公財)ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会、開催都市自治体、キャンプ地等、関係各部門との連携を深め、さらなる機運醸成活動の推進や、大会本番を見据えた運営シミュレーションの実現のサポートを取り組んでまいります。また、当協会の基盤確保のために、日本協会主催の有料試合においてマーケティングおよびプロモーション活動を強化し、スポンサー企業の満足度の向上および集客・収入の最大化を図ってまいります。加えて、TOKYO2020 を見据え、オリンピック種目の 7 人制強化を図り、女子はウィメンズセブンズワールドシリーズを 4 月に北九州で開催いたします。

3. トップリーグ

RWC2019 の開催に伴い、2019 年度は変則日程での開催となります。

2020 年度以降の新たなリーグのビジョン・設計等については、トップリーグ各チームと継続して検討を行っております。より具体的な各論のフェーズへと移行し、昨年度立ち上がった一般社団法人ジャパンラグビートップリーグの活用方法など、全体の枠組みを固めてまいります。

4. 普及・安全対策

「Integrity (品位)」を始めとするラグビーのコアバリューの浸透を図るとともに、安全対策の徹底とプレイヤーウェルフェアを念頭におきながら、引き続き若年層へのラグビー普及と選手育成を図り、登録競技者数の増加を目指します。

特に、安全対策については、重症事故撲滅を図るべく発生事故に対する調査・分析・研究を継続するとともに、チームの責任者から選手・スタッフまで、「安全対策」・「Integrity (品位)」の重要性の浸透を図るべく組織的なサポートの実行と各種研修や講習会でのプログラム化等、様々な角度からの啓発活動を強化いたします。

5. 財政・組織

財政については、2020 年度以降も視野に入れ、安定的な基盤確立のために確実な予実算管理とともに、各委員会の合同打ち合わせ等を実施いたします。

組織については、RWC2019 開催中は一部の担務変更を実施する等、柔軟な体制を構築いたします。また、開催終了後はマルチ職員の育成に向けた取り組みの実施（研修強化、ジョブローテーション等）と、職員の増員を検討してまいります。

以 上